№100　2026. 9発行

ハートフルケアなかの

中野区介護サービス事業所連絡会　発行　会長　花堂　浩一

祝・100号

ハートフルケアなかの
皆さまに支えられて、100号となりました！！
創刊から今日まで、中野区の介護をつなぐ広報紙として歩んでまいりました。

区長からのお祝いメッセージ

中野区長　　酒井　直人　様

「ハートフルケアなかの」第100号の発行を心よりお祝い申し上げます。
介護サービス事業所連絡会の皆さまには、日頃より地域の介護を支えていただき、深く感謝申し上げます。介護現場を取り巻く課題が多様化する中、区では第10期介護保険事業計画の策定を進めています。
中野区は今後も、皆さまと力を合わせながら、誰もが安心して暮らせる地域社会の実現に取り組んでまいります。皆さまのますますのご活躍とご発展を心よりお祈り申し上げます。

会長からのメッセージ

中野区介護サービス事業所連絡会　会長　花堂　浩一

このたび「ハートフルケアなかの」が記念すべき100号を迎えられましたことを、心より嬉しく思います。創刊以来、この広報誌を支えてくださった歴代の役員、各事業所の皆さま、そして中野区をはじめ関係者の皆さまに、改めて深く感謝申し上げます。
介護を取り巻く環境は、人材不足や高齢化の進展など、ますます厳しさを増しています。だからこそ、事業所同士がつながり、行政や医療、地域の皆さまと力を合わせることが、これまで以上に大切だと感じています。
100号は大きな節目ですが、新たなスタートでもあります。「中野で暮らしてよかった」と誰もが思える地域を目指し、これからも皆さまと共に歩んでまいります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

中野区介護サービス事業所連絡会　元会長　田口　善彦

中野区介護サービス事業所連絡会発行の「ハートフルケアなかの」の広報誌が100号を迎えられたとのこと、大変喜ばしく心よりお祝い申し上げます。
中野地域のご高齢者が『元気で100歳が当たり前』となり、50代から100代まで幅広い年代層の皆様が活躍できるような地域作りを、事業所連絡会の皆様と中野区が協力して作り上げてください。皆さんのご健闘を心よりお祈りしております。

100号を祝して

皆さまからお祝いのメッセージをいただきました

中野区地域支えあい推進部長　滝瀬　裕之　様

「ハートフルケアなかの」100号の発行、心よりお祝い申し上げます。介護の現場を日々支えてくださる皆さまの実践が、地域で暮らす方々の安心を支えています。専門職と地域、行政が顔の見える関係でつながり、支え合う力を育むことが大切です。区も皆さまと手を携えて歩んでまいります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

中野区地域支えあい推進部介護保険課長　會田　智浩　様

「ハートフルケアなかの」が第100号という大きな節目を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。中野区介護サービス事業所連絡会の皆さまには、日頃より区民に寄り添い、質の高い介護サービスの提供にご尽力いただいていることに深く感謝申し上げます。介護を取り巻く環境は、人材確保や物価高騰など多くの課題に直面しておりますが、皆さまのたゆまぬ取り組みが地域の安心を支えています。中野区といたしましても、今後も皆さまと連携し、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるまちの実現に努めてまいります。今後ますますのご発展をお祈り申し上げます。

中野区地域支えあい推進部
介護保険課管理係長　髙橋　祐一　様

「ハートフルケアなかの」100号の発行、誠におめでとうございます。

介護サービス事業所の皆様には、ご利用者やご家族に寄り添いながら、地域の暮らしを支えていただいておりますことに、心より感謝申し上げます。介護の仕事は、一人ひとりの人生や尊厳に向き合う大変重要な役割であり、その献身的な取組に深く敬意を表します。連絡会の皆様との連携の中で、介護現場の声を届けていただけることは、行政の担当職員として貴重な機会であると日々感じています。今後も事業所の皆様と力を合わせ、安心して暮らし続けられる中野区の実現に向けて、ともに歩んでまいりたいと思います。

中野区地域支えあい推進部
介護保険課管理係
堀川　和馬　様

「ハートフルケアなかの」第100号の発行、誠におめでとうございます。長年にわたり、介護サービスに関する情報共有や事業所間のつながりを支えてこられたことに敬意を表します。介護の日イベントやパネル展においても、連絡会の皆様には多大なご協力をいただいております。

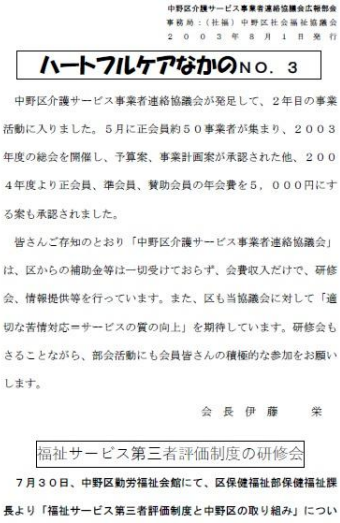
今後も地域の介護を支える大切なパートナーとして、連携を深めてまいりたいと考えております。

中野区医師会　会長　宇野　真二　様

広報誌「ハートフルケアなかの」100号のご発刊を心よりお祝い申し上げます。日頃より地域医療と介護の現場を支え、区民の暮らしに大きく貢献されている介護事業所の皆さまに、深く敬意と感謝を申し上げます。超高齢社会を迎え、医療と介護の連携はこれまで以上に重要となります。中野区医師会も皆さまと力を合わせ、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる地域づくりに向け、連携を一層深めてまいります。今後のさらなるご発展をお祈り申し上げます。

１００号のあゆみ

第3号
2003（平成15）年 8月



中野区介護サービス事業者連絡協議会広報部会
事務局：（社福）中野区社会福祉協議会
２００３年８月１日発行

ハートフルケアなかのNO．３

中野区介護サービス事業者連絡協議会が発足して、２年目の事業活動に入りました。５月に正会員約５０事業者が集まり、２００３年度の総会を開催し、予算案、事業計画案が承認された他、２００４年度より正会員、準会員、賛助会員の年会費を５，０００円にする案も承認されました。

皆さんご存知のとおり「中野区介護サービス事業者連絡協議会」は、区からの補助金等は一切受けておらず、会費収入だけで、研修会、情報提供等を行っています。また、区も当協議会に対して「適切な苦情対応＝サービスの質の向上」を期待しています。研修会もさることながら、部会活動にも会員皆さんの積極的な参加をお願いします。

会長 伊藤 栄

福祉サービス第三者評価制度の研修会

７月３０日、中野区勤労福祉会館にて、区保健福祉部保健福祉課長より「福祉サービス第三者評価制度と中野区の取り組み」につい

1

第50号
2013（平成25）年 8月



ハートフルケアなかの

No.50 2013.8 発行　中野区介護サービス事業所連絡会 発行 会長 田口 善彦

ハートフルケアなかの 発行50号記念

この度の発行50回を迎え、喜びとともにすべての関係各位に心より感謝申し上げます。
当連絡会は、平成14年に協議会として発足し、平成17年には連絡会に発展。今や区内全事業所の約8割を超える事業所が加入する有力な専門団体にと成長を遂げました。
今後は、中野区の介護事業における役割は勿論のこと、高齢者と現役世代、そして未来ある青少年たちとの三世代をつなげられるような社会貢献を展望して、各会員事業所の機能強化が図られることを願っております。
設立以来の先輩諸氏に敬意を表しますとともに、会員事業所の皆さまのご活躍を祈念して、50回記念号のご挨拶を申し上げます。

中野区介護サービス事業所連絡会 会長 田口善彦

今年度の本紙の特集コーナーでは「医療と介護の連携」を掲げました。平成24年度の介護保険法改正において、地域包括ケアの5つの視点の内の一つとして挙げられたのが「医療との連携強化」でした。
今年度、中野区介護サービス事業所連絡会に、『訪問看護部会』が新たに立ち上がりました。「医療と介護の連携」を実践していくに辺り、大きな一歩です。
これからも地域の情報、各部会や関係団体等の情報を持ち寄り、皆様に親しんで頂ける広報紙を目指します。

『オレンジバルーンフェスタ 2013in 新宿』開催！
"あなたはがんです"と言われたら…"
―がんの診断とともに始まる緩和ケア―

去る6月8日（土）・9日（日）に新宿西口広場イベントコーナーで開催された『オレンジバルーンフェスタ 2013in 新宿』についてご紹介します。
これは、がんの緩和ケアへの理解を広めようという目的で開催されました。（主催：東京都区西部緩和ケア推進事業運営会議・東京都がん性疼痛緩和推進コンソーシアム）。

新宿・杉並・中野区の緩和ケアに関係する医療、福祉関係者が協力し開催に至り、当日は医師や歯科医師、薬剤師、看護師、ソーシャルワーカー、介護支援専門員など100名以上がボランティアでスタッフとしてオレンジ色のポロシャツを着て、がん医療や緩和ケアについての展示や体験コーナー、講演、質問コーナーなどを担当していました。
会場はオレンジに統一され、明るく優しい雰囲気で、スタッフが来場者に笑やかな対応をしているのが印象的でした。

2日間の来場者数は、約2000人を超えました。目的を持って来場した方はもちろん、偶然新宿駅を利用する際立ち寄られた方もいらっしゃいました。
会議室や貸切のホールなどではなく、色々な方々が通行される新宿駅のイベントコーナーで開催した事により、関心のある人もない人も『緩和ケア』について目にし、又、触れる機会となりました。
緩和ケアを受ける方法については、通院・入院中に受けられる緩和ケア、専門的な緩和ケアを集中的に受ける緩和病棟（ホスピス）の他に、在宅で受けられる緩和ケアサービスも紹介され、いずれも他職種連携での支援がわかりやすい図により紹介されました。
今や『3人に1人が、がんで死ぬ時代』と言われますが、多くのがんは治る様になってきているとも言われています。医療と介護が連携し開催された、緩和ケアを社会全体で前向きに考えていく機会を提供できた2日間でした。

そして100号へ・・・

社会福祉法人武蔵野療園 駒野　登志夫　様

100号記念、おめでとうございます。

23区内でも介護保険が始まって初期から活動しているのは数少ないです。

今後も先駆的な試みを期待しています。

これまでを知る皆さまから
～ 歴史を振り返るメッセージ ～

前中野区長　田中　大輔　様

中野の介護サービスを守り育てた「ハートフルケアなかの」

2000年の介護保険制度導入に向けて、私は中野区の介護保険準備課長を務め、新制度に向けて手探り状態の中、事業者の皆様が懸命に準備に取り組まれる姿を目の当りにしました。開始した後も、制度は変遷を重ね、皆様は対応に追われてきました。それでも、利用者本位のサービスを守り、向上させて来られた大きな原動力は、よりよい介護の実現に向けた皆様の熱意と努力です。広報紙として、現場の熱い思いを結び付け、繋いできた「ハートフルケアなかの」は中野区にとってかけがえのない大切な存在です。

100号おめでとうございます。

桃園区民活動センター所長　堀田　善成　様

2000年から介護保険制度が始まり、介護事業者の一覧表作成を検討していた時にハートページの提案を受けました。その受け皿として、23区で初めて事業者連絡協議会を作りました。今では広報誌への広告掲載は当たり前ですが、当時は役所にフリーペーパーといった概念が無かったのです。

私の大胆な行動からもう20年以上も経つとのこと、感慨深いものがあります。私の公務員人生はもうすぐ終わりますが、これからも皆様のお力で益々盛会にして頂きたいと思います。広報誌100号発行、おめでとうございます。

事業所連絡会　元副会長　山田　忍　様

連絡会の設立では社協の故木内浩さんが区との調整で大変な苦労をされました。よく飲み、よく議論しましたが「いつまでも社協や区に頼るな」と強く言っていました。依存と連携は違う、連絡会は組織として自立するだけではなく、保険制度のなかで福祉理念をどう発揮するか自分たちで考えろとも言いました。

そのような緊張感の漂う中、自分や自分の事業所のことを先に考えるような部分は淘汰されていきました。これは今後も継承してほしいものだと思います。

中野区社会福祉協議会　小山　奈美　様

「ハートフルケアなかの」100号の発行おめでとうございます。運営委員の皆様が忙しい中でも取材をしながら記事を集め、中野区介護サービス事業所連絡会の取り組みを発信する大事な広報紙として発行し続け、100号となりました。

事務局としては、皆さんの活動を支えつつ、一人でも多くの方に取り組みを知っていただけるよう、これからも一緒に頑張っていきたいと思います。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

中野区介護サービス紹介パネル展と介護相談会について

パネル展示

7月16日(木)～7月29日(水)中野区役所１階フロア「ナカノのナカニワ」にて、区民の皆さまに介護サービスへの理解を深めていただくため「介護サービスパネル展」が開催されました。





会場では、さまざまな介護サービスの内容を紹介するパネルが展示されました。写真やイラストを交えて分かりやすくまとめられており、区民の皆さまに介護を身近に感じていただく良い機会になりました。

ケアマネジャー相談窓口

7月27日(月)～7月29日(水) には、介護に関するお悩みや疑問にお答えする「ケアマネジャー相談窓口」が開設されました。

介護保険やサービスの利用方法のほか、「介護が必要になったらどこに相談すればいい？」「将来、体調が悪くなったら入れる施設はある？」など、将来の暮らしや介護に関する不安についてもご相談がありました。



介護が必要になったとき、どんなサービスがあるのかを知っておくこと、相談できる場所を知っておくことが安心につながります。
これからも中野区介護サービス事業所連絡会は、行政・地域の関係機関と連携しながら、介護サービスの情報を地域の皆さまに届け、安心して暮らし続けられる地域づくりに取り組んでいきます。

（担当：星野　智光 ）

編集委員：白岩　裕子・松永　謙一・小畑　理恵子・佐藤　英郎・鈴木　亨依・秦　拓也・星野　智光・宮川　秀一郎（広報チーム）

「ハートフルケアなかの」は、中野区介護サービス事業所連絡会ホームページからダウンロードできます。職員、利用者様にも配布してご活用ください。
（http://www.nakano-kaigo.org/）

事務局：中野区社会福祉協議会 経営管理課内 担当　小山・丸岡
〒164-0001 中野区中野5-68-7 スマイルなかの４階 （日・祝･第3 月休）
電話：5380－0751　FAX：5380－0750